

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
岐阜市	岩	令和3年3月12日	令和5年3月1日

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	105.00 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	51.36 ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	16.13 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	11.04 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.00 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	8.00 ha
(備考) 地区内の耕地面積105haの内訳：水田 58ha / 畑 47ha	

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

## 2 対象地区の課題

中心経営体である認定農業者を中心とした農地(水田)の集積・集約化を進めたいが、地区内に水稲の担い手がない。地区内水田についてブロックローテーションに取り組んでいたが令和3年度からブロックローテーションを廃止する。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

今年度中に隣接地区の担い手が、岩地区の中心経営体として岩地区の人・農地プランに参加してもらう。現在、農作業受委託も含め自作で耕作を継続してきた農家が多い。今後は、担い手を中心とした農地(水田)の集積・集約化を進める。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

#### 4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

農地中間管理事業の活用による貸借の設定が進んでいないため、まずは農地所有者は、出し手と受け手の相手にかかわらず、原則として農地を中間管理機構に貸し付けるよう進めていく。  
岩地区人・農地プランの中心経営体(担い手)に農地(水田)の集積をするよう図る。